

Wednesday, August 27, 2014

ODU NEWS

ODU students won second prize at the Research Program (SCRP) Invitational



Aromatherapy during Sleep Promotes the Secretion of SIgA and Reduces ... in Whole Saliva.

SC-19 Student Clinician Research Program 2014



Contents

02 Topics

- ・ スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム (SCRIP) 日本代表選抜大会で本学代表学生が第 2 位を獲得しました
- ・ 第 46 回全日本歯科学生総合体育大会で総合第 3 位になりました

03 平成 26 年度 オープンキャンパス

03 入学試験に 3 つの新制度導入

04 学位・博士(歯学)授与報告

04 平成 26 年秋の叙勲受章者

04 教授就任

歯科理工学講座 今井 弘一

口腔治療学講座 前田 博史

08 行事報告

- ・ 平成 26 年度 薬物乱用防止講演会
- ・ 第 22 回 公開講座「超高齢社会への歯科の取り組み」

- ・ 平成 26 年度 第 6 学年父兄会
- ・ 平成 26 年度 女性被害防止講演会
- ・ 平成 26 年度 解剖体遺骨返還式
- ・ 平成 26 年度 歯科衛生士専門学校 戴帽式
- ・ 平成 26 年度 地方父兄会(京滋地区)
- ・ 平成 26 年度 体育祭
- ・ 第 46 回 大学祭(楠葉祭)
- ・ 平成 26 年度 子ども大学探検隊
- ・ 平成 26 年度 自衛消防訓練
- ・ ひらかた市民大学 2014
- ・ 平成 26 年度 実験動物慰霊祭

11 国際交流

- ・ 【学生短期海外研修】シドニー大学歯学部
- ・ 【協定校学生受入】シドニー大学歯学部

12 人事

12 寄贈

12 あとがき

— お詫びと訂正 —

広報第 171 号の掲載内容に誤りがありました。ここに深くお詫びし、訂正をいたします。

・ 人事 p27 学内食堂管理運営委員会委員長 (誤) 川合進二郎 → (正) 田中昌博



= Topics =

スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRP）日本代表選抜大会で本学代表学生が第2位を獲得しました

平成 26 年 8 月 20 日(水)、日本歯科医師会館大会議室において、スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRP）日本代表選抜大会が行われ、本学代表の三上優さん、中西優佳さん、福田さつきさんが臨床部門の第 2 位を獲得しました。

SCRP は、学生みずからが設定したテーマの研究成果を、英語によるポスタープレゼンテーション形式で競い合う学術大会で、1959 年に米国で始まり、現在では世界 39 カ国において実施されています。日本では 1995 年にスタートし、第 20 回の記念大会となる本年度は、全国から 28 校が参加し、白熱した発表を繰り広げました。

また、上位入賞者に贈られる楯の学内授与式が 10 月 7 日(火)に行われ、川添堯彬 理事長・学長より授与されました。

受賞者：三上優さん、中西優佳さん、福田さつきさん

テーマ：「睡眠中のアロマセラピーは SIgA の分泌促進と唾液中細菌数の減少を促進する」



第46回全日本歯科学学生総合体育大会で総合第3位になりました

第 46 回全日本歯科学学生総合体育大会は、平成 26 年 8 月 1 日～ 12 日に夏期大会が行われました。冬期大会（平成 25 年 12 月 25 日～平成 26 年 3 月 21 日開催）の結果も合わせ、本学は総合第 3 位になりました。また、部門別では、ボウリング、空手道、アーチェリー、漕艇の 4 部門において優勝しました。体育会所属学生諸君の健闘を讃えます。

第 47 回全日本歯科学学生総合体育大会は、事務主管を奥羽大学に移して本年 12 月から行われる予定であり、本大会表彰式後に大会旗の引継ぎが行われました。次回大会でも本学の活躍を期待します。



|| 平成 26 年度 オープンキャンパス

今年度は6月1日(日)、7月21日(月・祝)、8月24日(日)、11月1日(土)の4回、オープンキャンパスを開催しました。8月24日は後半から大雨、11月1日も小雨混じる空模様で、天候には恵まれなかったものの、年間の来場者数は4年連続で過去最高を記録し、大盛況のうちに終わることができました。

また、今年は初の試みとして、受験相談・病院見学会を8月1日(金)に開催しました。参加者の皆さんは、実際に臨床の現場に立たれる先生方の引率で附属病院内を見学し、普段目にすることのできない歯科医療現場の最前線を肌で感じていただけ

たのではないかと思います。

近年、女子学生の理系志向が強まる中、今年度の本学新入生も女子が過半数を占めるという、大阪歯科大学始まって以来の様相となりました。その傾向を反映するかのようになり、オープンキャンパスに参加する学生の女性比率が6割を超える年が続いています。こうした世情もキャッチしつつ、今後も本学ならではの魅力あるオープンキャンパスの実施を目指します。



Admission
2015

大阪歯科大学の入学試験に、新たに3つの制度が導入されます。

- 1. 授業料等の全額免除**
一般入試（前期日程）受験者のうち、成績上位30名について、入学初年度の授業料等 5,150,000 円を免除します。
- 2. 大学入試センター試験利用入試の導入**
大学入試センター試験の成績を利用する入試を、前期（1月）と後期（3月）に導入します。一般入試（前期・後期）との併願も可能です。
- 3. 東京会場の新設**
一般入試（前期日程）において、東京にも試験会場を設置します。

|| 学位・博士（歯学）授与報告

邢 鶴琳 甲第 740 号 平成 26 年 6 月 25 日

Osteogenic activity of titanium surfaces with nanonetwork structures
(ナノスケールでのネットワーク構造を付与した純チタン金属表面上における骨形成活性について)

|| 平成 26 年 秋の叙勲受章者

大学 1 回 山元 祐次 滋 賀 県 旭日双光章
大学 4 回 秋田 哲郎 徳 島 県 瑞宝双光章
大学 5 回 四元 久子 鹿 児 島 県 瑞宝双光章
大学 9 回 佐藤 文夫 大 阪 府 瑞宝双光章

大学 9 回 宮腰 恒寛 福 井 県 瑞宝双光章
大学 10 回 中谷 伸家 和歌山県 瑞宝双光章
大学 14 回 牧野 弘嗣 石 川 県 瑞宝双光章
大学 16 回 大橋 寛治 和歌山県 旭日双光章

教授就任

就任された下記 2 名の先生のご略歴とご挨拶を掲載いたします。

歯科理工学講座 主任教授 今井 弘一 平成 26 年 8 月 1 日付
口腔治療学講座 主任教授 前田 博史 平成 26 年 9 月 1 日付



歯科理工学講座 主任教授

今井 弘一
いまい こういち

歯学博士
昭和 27 年 3 月 9 日生まれ 62 歳

<学歴>

1976年3月 大阪歯科大学卒業
1982年6月 歯学博士の学位を受領

<職歴>

1976年 4月 大阪歯科大学 助手
1984年 11月 大阪歯科大学大学院 助手
1988年 4月 大阪歯科大学 講師
1989年 5月 大阪歯科大学大学院 講師
2010年 4月 大阪歯科大学 准教授
2012年 4月 大阪歯科大学大学院 准教授

教授就任ご挨拶

歯科理工学講座 今井 弘一

大阪歯科大学主任教授会の選出および法人理事会の承認を得て、平成 26 年 8 月 1 日付で川添堯彬理事長より「歯科理工学講座主任教授」を拝命いたしました。

私は人間性豊かな和の精神を最大限尊重したいと考えます。また、一世紀以上培われてきた大阪歯科大学の建学の精神を最大限尊重することはもちろん、その中でとくに、自らの選んだ道に深い使命感をもって、社会に対する

奉仕の人生観を実践することが最も重要と考えます。さらに健康にして活動力のある情操豊かな人間形成に少しでも役立つことを最大限の目標に掲げたいと考えます。

生理学講座主任教授の西川泰央先生、口腔外科学第 1 講座主任教授の森田章介先生、歯科技工士専門学校長・歯科審美学室専任教授の末瀬一彦先生らとともに、大阪歯科大学を昭和 51 年に卒業し、歯科理工学講座助手として川原春幸教授のもとで修行に励むこととなりました。川原春幸教授は生物学的適合性研究の先駆けとして日夜精

力的に活動され、研究室は非常に活気がみなぎっておりました。研究内容は歯科生体材料の生物学的性質を研究するグループと、鑄造欠陥や埋没材などを研究するグループがありました。私は前者のグループに属し、中村正明助教授、故 西田堯吉博士、今西嘉次博士、前田卓郎博士から、当時の先端とされた細胞培養テクニックを指導していただき、歯科生体材料の生体適合性研究の中でも細胞毒性や生体材料表面と生体とのなじみに関して種々の研究を行いました。昭和 57 年に歯学博士を取得し、歯科理工学講座で教育ならびに研究

活動を続けて今日に至っております。

教育に関しましては、近未来の歯科医療を支える若い力を正しく教育し優秀な歯科医師を育て上げることは、社会が歯科大学に最も期待していることであると信じております。本学学生が単に知識のみならず、医療人としての責任感や道徳心に溢れ、将来の患者さんや社会から高く評価され、地域で最も尊敬される立派な歯科医師となるための教育に私はいかなる努力も惜しむべきではないとの考えを持っております。

歯科医師国家試験のみならず CBT や OSCE など卒業までに多くの関門を突破させる必要があり、学生の学力向上に努めなければなりません、そのために学生が自ら学習意欲を示すとともに、学んだ内容に興味と実感を持つ必要があると思います。学生には将来の患者さんのための実践教育であるとともに、歯科医師の道に踏み込んだからには終生学習を続けなければならない原点を習得してほしいことを強く認識

させています。無意味な詰め込みに耐えられる学生だけへの専門教育は必ずしも立派な歯科医師への教育ではないと思います。試験が終わったら直ちに忘れて次の内容を記憶させる教育ではなく、学生が歯科医師になってからもすばらしく役立つ内容の教育に励みたいと考えます。

現在、歯科理工学分野は大きな発展をしています。歯科理工学は古くから金属の加工や鋳造が中心でありましたが、チタンなど一部を除いて金属からセラミックスやレジン、あるいはそれらのハイブリッド材料へと大きく転換しつつあります。また、接着技術、レーザー機器や CAD/CAM あるいは光造形などの新技術も注目されています。さらに 3 次元プリンタの応用やマイクロマシンの領域まで、未来でなく明日の技術として迫ってきています。この発展による臨床技術の進歩は速く、臨床の場において大きな影響を与えていると考えております。今後もさらにこの

発展に拍車がかかるものと考えます。そのため、歯科理工学に関係する学会も研究内容が多彩になるとともに、従来の歯科理工学のイメージとは異なった様相をなしています。したがって、学生教育においても従来の歯科理工学体系の範疇にとらわれず、学生が歯科理工学に興味を持ち、さらに学生自身が獲得した知識と技能の応用力によって、今後も新しく誕生するであろう新技術をうまく習得できるような新しい歯科理工学教育の基盤の充実に力を注ぎたいと考えます。しかし、単に新しいものに追従するだけではなく、基本的な教育内容に確実に根ざした、揺るがない基盤を築いた上で芽吹いた新技術を的確に伝授したいと考えています。

大学院教育におきましても歯科理工学分野の広がりや発展する新規技術を上手く取り込んだ魅力ある教育内容を実践したいと考えています。より進歩した臨床歯科学を提供する社会ニーズに合った有能な大学院生を

育てるべく努力したいと考えています。また、活気と魅力ある歯科理工学研究を進展させることが、学生が大学院を志望する動機にプラスに働くと考えます。

社会系歯科医学教育の中で第 3 学年に臨床歯科医学情報科学教育を行っております。この科目はコンピュータが世間に広まって歯科臨床分野でも利用されはじめた 1996 年より歯学情報科学として第 4 学年に実施してきました。当初は牧野学舎へ出向いて 4 グループに分けて 1 日中コンピュータ教育を行ってまいりました。歯科医師として必要なコンピュータを操作し、目的とする作業を行い、必要な情報を得ることができる能力、すなわちコンピュータリテラシーを教育の中心に据えてまいりました。しかし、コンピュータが社会に普及し医療の現場でもネットワークが不可欠なものとなってまいりました。そのため、医療情報倫理を十分理解できること、すなわち患者さんのセキュ

リティ情報の重要性を認識し尊重でき、それらを十分に保護することができ、それらが最も大切な教育目標となりました。現在ではネットワーク社会から患者さんやスタッフはもとより歯科医師自身を守るための知識や技能を身につけることを目的に教育を行っております。これは一般の医学部と異なり医療情報学の特に倫理教育を受けていない歯学部出身者の隠れた欠点でもあります。医療情報化社会の中で、高齢化社会で他科との地域医療情報の連携が益々重要となっておりますが、大阪歯科大学の卒業生は歯科医師として医学部出身者と患者情報の多面的連携を中心とした地域医療情報ネットワークの一員として医師と同列で参画できるだけの知識と技能を有しています。

研究に関しまして、歯科理工分野で最も古くから生物学的性質についての研究を継続してきた研究者のひとりとして、多くの他研究機関で行っているような類似内容の研究の追従ではな

く、他では実施されていない新しい研究内容を進める必要性を痛感しています。今後とも生物学的性質の研究で歴史ある歯科理工学講座の研究内容をさらに積極的に開拓・発展させ、他研究機関をリードして世界へ発信し続けなければならないと考えております。

日本再生医療学会が登場した約 12 年前に、歯科領域でも再生医療技術が研究される土台として日本再生歯科医学会設立に関与いたしました。歯科領域での再生医療の特徴は、細胞のみならず人工材料の発展で培われた生体材料とのハイブリッドを応用する技術の選択肢が多い点と一般的な再生医療とは少し異なるためです。その後、口腔インプラント技術の発展や再生医療の社会的な流行とともに歯科再生医療の研究は発展しました。他方、私は 1997 年にドイツ連邦の BgVV (Bundesinstitut für gesundheitlichen Verbraucherschutz und Veterinärmedizin) へ研究に向

き、Prof. H.Spielmann の研究室で当時最先端であった ES 細胞培養技術を習得できました。この技術を使って生体材料や薬剤の特殊毒性である発生毒性や再生医療への ES 細胞の応用を研究してきました。ドイツ連邦から帰り、当時はまだ ES 細胞の研究を行っていなかった京都大学再生医科学研究所に持ち込んで、戸口田淳也助教授（現在京都大学 iPS 細胞研究所副所長・教授）らとともに ES 細胞の研究を行いました。現在では iPS 細胞が発見され、ES 細胞培養技術が応用できるので研究が大きく発展しています。近未来の再生医療は iPS 細胞を目的とする組織や臓器に分化させて、損傷組織や臓器に移植するテクニックの確立が最終目標となります。そのため、再生医療研究は iPS 細胞分化の方向性や加速制御あるいは高次構築技術に発展していくことが予想されます。一般の再生医療研究が最終的に iPS 培養技術へ発展していく中で、歯科再生医学が幹細胞と人工

材料とのハイブリッドテクニック、あるいはナノ材料や人工材料の表面処理技術などでさらに独自性を発揮する機会が益々大きくなると思います。

新しい歯科再生医療技術や人工材料の開発研究に今後も拍車がかかると思いますが、それらのヒトへの安全性評価法の研究が不可欠です。私は以前から ISO/TC194（医療機器の生物学的評価）の委員をしております。安全性評価法の研究は、経済的、統計的に有利な動物実験代替法の技術革新が求められています。OECD、ISO、ICH 等の国際機関でも多くの試験法が新たに提案され、欧州の REACH 規制はすべての化学物質の安全性再評価を義務付け、動物実験代替法の活用を推進しています。現在、この規制は日本国内から欧州連合に輸出する各企業にも非常に大きな波紋が及んでいます。先進国では安全性情報のない医薬品、医療機器は製造・輸入・使用が出来なくなり、「安全性なくして市場なし」という段階に

まで来ています。国際的にも安全性評価法の研究と開発は最重要課題で、動物実験代替法の開発・バリデーションを促進するため欧州連合では ECVAM、米国は ICCVAM と NICEATM、日本は JaCVAM が設立され活発に活動しています。従来から各種の歯科生体材料を使用して動物実験代替法の研究を行ってきましたが、今後さらにこれらを発展させたいと考えています。新規開発と安全性評価は表裏一体です。将来にわたってヒトへの安全性が確保された人工材料の開発は社会的にも達成する必要性を痛感しています。これらの研究成果を社会に役立てることで、遡って本学の価値を少しでも高めることが自分に課せられた使命であると考えております。

大阪歯科大学の皆様におかれましては、今後ともさらなるご厚情を賜りませう心よりお願い申し上げます。



口腔治療学講座 主任教授

前田 博史 まえだ ひろし

博士（歯学）／昭和42年1月31日生まれ47歳

<学歴>

1991年 3月 岡山大学歯学部歯学科卒業

1995年 3月 岡山大学大学院歯学研究科 博士課程修了 博士（歯学）の学位を受領

<職歴>

1995年 7月 岡山大学歯学部附属病院 第二保存科 助手

2007年 1月 岡山大学医学部・歯学部附属病院 歯周科 講師

2008年 4月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 歯周病態学分野 准教授

教授就任ご挨拶

口腔治療学講座 前田 博史

大阪歯科大学主任教授会の選出および法人理事会の承認を頂き、平成26年9月1日付で大阪歯科大学口腔治療学

講座の主任教授を拝命いたしました。皆様どうぞよろしくお願ひいたします。私は岡山県生まれで、小学校から高校まで地元の学校に通いました。大学も岡山大学の歯学部に入學し、卒業後も岡山大学の大学院、そして学位を取得し

た後も岡山大学歯学部歯科保存学第二講座（現在の歯周病態学分野）で教員の職に就きました。これまで、海外留学の際を除いて、岡山から出て仕事をした経験がありませんでした。このたびは、これまで居た小さな世界から大海原へ

出航する気持ちで大阪に出てまいりました。こちらに来て、通勤時の京阪電車から大阪城が見えるのがとても印象的でしたが、赴任してきた不安感からか、ビルの中に立つ大阪城を見ていると、時間と空間がねじれているような不思議な感覚を覚えています。大阪歯科大学に赴任して2カ月が経とうとしていますが、伝統のある大学に赴任して、いささか緊張した毎日を過ごしています。教育・研究・臨床のスタイルもこれまでと勝手が異なり、戸惑うことも多々ありますが、多くの先生、職員の方々から親切にして頂き、またご教示を頂いて毎日の仕事に取り組んでいます。教室の中では、吉田准教授、好川講師、至田講師をはじめとした口腔治療学講座の諸先生から、慣れない点をカバーしてもらっています。今のところは新天地の環境に順応することに必死の毎日ですが、今後は口腔治療学講座の発展、そして大阪歯科大学の発展のために精一杯努力したいと考えています。今回は、ご挨拶をする機会

を与えて頂きましたので、私の持っている背景と今後の抱負につきまして、紹介させていただきます。

私は岡山大学歯学部を平成3年に卒業しました。岡山大学では6期生になります。大学院修了後は、平成7年から岡山大学歯学部の教員として勤務してきました。岡山大学の歯科保存学第二講座、現在の歯周病態学分野で、私は先代教授である村山洋二先生に教えを頂きました。大阪歯科大学では「博愛」と「公益」が建学の精神となっていますが、村山教室では「品位と威厳」という言葉が、現在も医局員の物事に対する考え方の中核となっています。この品位と威厳には、色々な意味が込められていますが、その根幹は Science oriented なアプローチ（考え方）にあります。歯学は医学に比べると、知識、あるいは技術がより重要視される傾向にあります。しかしながら、歯科医師が本当に品位と威厳を社会に示すためには、医師と同様に科学的な視点をもつこと、物事の本質を見極

めようとする姿勢が大切であると、私は教えられてきました。大阪歯科大学のアドミッションポリシーにおいても、物事の考え方や、物事に取り組む姿勢の重要性が述べられています。私がこれまで教えられてきた Science oriented な考え方は大阪歯科大学の理念にも沿うものであると思っていますので、このような考え方を、今後も学生達に伝えていきたいと考えています。

これまでと変わらず行っていきたい事がある一方で、これまでとは異なる対応が必要な面もあります。特に国家試験を念頭においた学生教育には、これまで以上の比重をおいて取り組む必要があると考えています。赴任後、学生とはまだ接する機会が多くありませんが、伝統のある大阪歯科大学のブランド意識を多くの学生と共有できるように、これから私自身が勉強していくつもりです。

私の学位の研究テーマは *Porphyromonas gingivalis* の保有する熱ショック蛋白質に関するものでした。

大学院当時は分子生物学が脚光を浴びるようになってきた時代でした。その後も口腔微生物の遺伝子解析を中心とした研究を行ってきました。今後も同様の分野で研究を実施していく考えです。超高齢化社会の現代では、口腔微生物に対する対策が重要となっています。特に、誤嚥性肺炎に対する対策、あるいは、宿主抵抗性の低下と抗生剤の長期使用に起因する日和見感染や菌交代現象に対する対策が急務となっています。また、高齢者を含め、糖尿病患者や化学療法を受けている易感染状態の患者、そして心血管疾患患者などの全身疾患を有する患者においては、口腔内の感染症に起因する慢性炎症や血中に移行した口腔微生物が全身疾患に影響を与えることが明らかとなっています。このため口腔ケアの重要性が示唆されて久しいのですが、感染コントロールの方法とその効果に関しては科学的な根拠が乏しいのが現状です。歯内治療や歯周治療についても感染対策の方法に大きな変革

は起こっていません。抗生剤、あるいは消毒・殺菌剤を使用する感染コントロール法は、微生物を須らく排除する方法です。しかしながら、口腔内、あるいは腸内の微生物叢は生体にとって重要な役割をもっています。いわゆる善玉菌を含んだ正常な微生物叢は生体にとって必要であり、排除することはできません。現在、正常微生物叢を維持する方法としては、ヨーグルトなどで善玉菌を供給するプロバイオティクスが主流です。これに対して私は、ペプチド核酸を使用したアンチセンス療法によって、特異的な細菌を排除する方法を模索しています。次世代シーケンサーを主体とした分子生物学的手法の発達によって、口腔内や腸内微生物叢の全容が明らかにされつつあり、今後は微生物叢のコントロールが重要な研究課題になると予想されます。歯学のみならず、広く医学、生物学の分野に貢献できる研究課題を実施してみたいと考えています。

臨床に関しましては、大学病院として

高度な医療を提供することを前提とし、検査所見にもとづいた確かな診断を行うこと、そして、検査所見だけでなく、患者背景に配慮した固体医療を展開するように努めたいと考えています。これによって、大阪歯科大学附属病院の理念となっている、「あたたかい医療の提供」を実践するつもりです。特に、高齢社会で、有病者が多くなっていく時代背景から、focal infection や、持続慢性炎症の全身への影響を考慮し、歯内疾患の感染コントロールを通じて、全身の健康、あるいは医科診療に寄与することを診療科の理念のひとつにしたいと考えています。また、各科の先生と連携し、包括的な医療が提供できるように努力するつもりです。教育、研究、臨床はそれぞれ密接に関連していますので、単に診療のための診療とならないように、診療と研究、教育をうまく結びつけるようにしたいとも考えています。

講座、大学の発展のためには人材育成が不可欠となりますが、私は特に大学

院生の教育に力を注ぎ、人材育成に努めたいと思っております。大学院教育は、少人数の学生と向き合えるため、物事の見え方や、物事に取り組む姿勢を伝えるのに最適です。責任をもって学位取得のための研究を実施させ、今後の大学、

あるいは地域医療を担う人材を育てていきたいと思っています。臨床系の講座でありますから、高い専門性をもった臨床家を輩出するため、認定医・専門医取得のための教育も大学院の間に実施したいと考えています。大阪歯科大学の

発展、そして歯科医療の発展のために貢献できるように努めてまいりますので、今後とも何卒ご指導ご鞭撻の程、お願い申し上げます。

= 行事報告 =

9/4 (木)
9:00

大学行事 平成 26 年度 薬物乱用防止講演会

大阪府警察本部と枚方警察署より講師をお招きし、第 1 学年の学生を対象に危険な薬物から身を守るための講演会を実施しました。140 名全員が参加し、学生生活を安全に過ごすための知識を学びました。

講演会の中で放映された再現映像では、覚せい剤等

を使用するきっかけはほんの些細なものでも、依存性が高まるにつれて、仕事や私生活がぼろぼろになり、やがては幻覚が原因で…という顛末が描かれており、危機感・自己防衛意識を大いに喚起する内容でした。

取り組み 第 22 回 公開講座「超高齢社会への歯科の取り組み」

【天満橋講座 1】 大規模災害における口腔ケアの重要性—南海トラフ大地震に備える—

9/13(土) 神戸常盤大学短期大学部 口腔保健学科 足立了平 教授

10:00

講師の足立教授は、阪神・淡路大震災での被災や東日本大震災の被災者支援など、先生ご自身の実体験と現場での試行錯誤から、災害時の歯科の役割として「関連死をなくす」取り組みを続けてこられました。避難所における口腔ケアやその具体的備えなど、自分自身で命を守るために必要な知識を、丁寧に解説してくださいました。いつ何時起こるかもわからない大規模災害、参加者のみなさんも真剣にメモを取ったり、自分自身や大切な家族のためにできることを学ぶ良い機会となりました。



【天満橋講座 2】 信頼できる「かかりつけ歯科医」とともに

9/20(土) 大阪歯科大学 高齢者歯科学講座 高橋一也 准教授

10:00

歯科は私たちが生活するうえでとても身近な医療であり、「かかりつけ歯科医」を持っているかどうか、どれほど生活の質に影響を及ぼすかについて、豊富なデータに基づいて、わかりやすくお話されました。

歯科系のシンポジウムや学会などでも演者として活躍されている高橋先生のお話は、とてもわかりやすく、自分の口をいかにうまくマネジメントしていくかについて、今日からでも実践できるポイントを具体的に教えてくださいました。



【第22回大阪歯科大学公開講座（天満橋講座）アンケート結果】

質問項目	満足	ほぼ満足	普通	やや不満足	不満足
公開講座を聴講してのご感想	72%	23%	4%	1%	0
抄録集の内容	60%	34%	6%	0	0

- ・大学が世の中に向け、専門分野の情報を発信していただくのはとても有意義です。
- ・災害が起きた場合、口腔ケアはとても重要なことが分かりました。私は災害の中でも口腔ケアを行うことができる立派な衛生士になりたいと思います。
- ・いつか自身も老けていくので大変勉強になりました。歯も悪いのでかかりつけ医の大切さも本当によくわかります。きちんと備えておこうと思いました。

9/27(土) **大学行事 平成26年度第6学年父兄会**

9:00

本学天満橋学舎創立100周年記念館にて行われ、ご父兄60組が参加されました。本学からは、川添理事長・学長、田中教務部長、田中学生部長、梅田学年

指導教授をはじめ関係各位が出席し、学内報告などを行い、引き続き特別アドバイザーによる個別面談を実施しました。

10/6(月) **大学行事 平成26年度女性被害防止講演会**

15:00

大阪府警察本部と枚方警察署より講師をお招きし、第1学年女子学生を対象に講演会を開催しました。女子学生67名のうち59名が参加し、自らの身を守るための知識を学びました。

大阪府下での強制わいせつ被害件数は、東京の1.5倍にものぼり、さらに枚方市での発生件数は大阪府下で1番多いという事実に、学生の間からもどよめき

が起きました。

このような被害の多くは「道路上で、夜中0時頃、背後から」という状況で起こっているとのことで、対策として、①遠回りでも明るい道を通る、②「ながら歩き」は危険。歩きスマホや、イヤホンをしながらの歩行はしないこと、③防犯ブザーを携帯する、の3点を心がけるよう促されました。

10/10(金) **大学行事 平成26年度解剖体遺骨返還式**

14:00

平成26年度解剖体遺骨返還式は楠葉学舎5号館3階大会議室において執り行われ、式の始めに、歯科医学教育の為、自らの身体を提供された故人の皆様の御霊に対し、参列者一同ご冥福を祈り黙祷が捧げられま

した。

川添理事長・学長より故人とご遺族への感謝の言葉が述べられ、参列のご遺族お一人お一人に感謝状を贈り、ご遺骨が丁寧に返還されました。

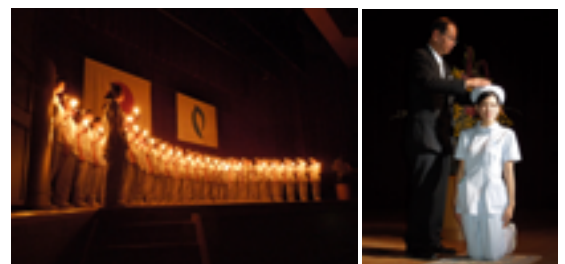
10/14(火) **衛生士 平成26年度歯科衛生士専門学校戴帽式**

10:00

強力な台風19号が大阪を通過したあとの澄み切った空の下、歯科衛生士専門学校では、2年生（第39期生）45名が、戴帽式を迎えました。

小出武校長は訓辞として、「患者さんとの双方向のやりとりがこれからの学びの主なスタイルになる。そのかわりの中から意味を見出し、患者さんの健康の回復と維持につなげることがこれからの実習の重要な目的である」、「そこから自分でできる役割を感じとり、それを誠実に行うことが歯科衛生の実践者として大事なことである」と述べられました。また、清く、初々しいナースキャップは2年生のみなさんを象徴していること、この戴帽式の感動と誓いを胸にこれからの困難を仲間とともに乗り越えるよう励ましの言葉が贈られました。

2年生は戴帽式の1週間ほど前から讃歌の練習に励み、式の当日には、開始前に全員で円陣を組んで、心をひとつにして歌いました。讃歌の歌声はとても素晴らしいものでした。臨地実習、臨床実習は既に始まっています。清々しいみなさんのこれからの活躍が期待されます。



10/19 (日) **大学行事** 平成 26 年度 地方父兄会 (京滋地区)

京都市のメルパルク京都にて行われ、ご父兄 16 組が参加されました。本学からは、川添理事長・学長、田中教務部長、田中学生部長をはじめ、関係各位が出席し、学内報告などを行い、引き続き個別面談を実施しました。



10/25 (土) **イベント** 平成 26 年度 体育祭

13:00

本学牧野学舎グラウンドにて開催された体育祭は、学生や教職員をはじめ、学友会関係者、歯科技工士・歯科衛生士専門学校学生など多数参加し、クラブ対抗リレー、綱引きなどの競技で白熱した闘いを繰り広げました。本学伝統の『みこし』の後、6年生は恒例の「ファイヤーストーム」を囲み、燃えあがる炎を見つめながら、学生生活最後の体育祭を満喫しました。



11/1-2(土) **イベント** 第 46 回 大学祭 (楠葉祭)

秋晴れの空の下、2 日間にわたって大学祭が開催されました。学生が趣向をこらした露店や各クラブのユニークなパフォーマンスなどが楠葉キャンパス内で繰り広げられ、近隣住民の方がお散歩がてらに来場した

り、学生や卒業生なども露店のご飯を食べたり、ゲームを楽しんだり、演奏を聴いたりして、賑わいました。初日には、オープンキャンパスに参加した高校生なども参加し、大学祭の空気を味わっていました。

11/ 2 (日) **地域連携** 平成 26 年度 子ども大学探検隊

10:00
~12:00

「枚方市子ども大学探検隊」は学園都市ひらかた推進協議会の事業として、「次代を担う子どもたちに市内の 6 大学に親しみを感じてもらい、将来への夢を育むきっかけをつくる取り組み」として平成 16 年度から実施されています。

今年のテーマは「歯の模型を作ろう！ 1 日歯医者さん体験！」で、枚方市内に在住・在学する小学 4 年生から 6 年生の 39 名の児童が参加しました。枚方市生涯学習課・木村吉希課長、本学川添堯彬理事長・学長の挨拶のあと、歯に関するクイズを交えた講義と歯の模型作りの実習を約 40 分ずつ、2 グループに分けて実施しました。

探検終了後、希望者は大学祭イベントのお笑いトークショーを観覧したのち、模擬店や無料歯科検診等の大学祭を楽しんでいました。



【楠葉学舎】 **取り組み** 平成 26 年度 自衛消防訓練

11/14 (金)
15:30

楠葉学舎では、11 月 14 日(金)午後 3 時 30 分から、第 3 学年学生も参加し、緊急地震速報を想定した避難訓練を含む防災・防火総合訓練を実施しました。

【天満橋学舎】
11/17 (月)
16:00

内容は、「南海沖にて震度 6 強の地震が発生した」との設定で、緊急地震速報を想定した避難訓練を行い、また、地震によって発生した火災も想定し、各部局等で組織する自衛消防隊を中心に、避難誘導、安否確認、傷病者搬送、初期消火訓練として水消火器による消火訓練、屋内消火栓を用いた放水訓練を行うとともに、



楠葉学舎での訓練

防災センターでは消防署への通報、施設点検の訓練を行いました。

また、天満橋学舎では、11月17日（月）に夜間を想定した訓練、11月25日（火）午後4時から自衛消防訓練が行われ、12月9日（火）には牧野学舎にて訓練が実施されます。



天満橋学舎での訓練

11/15（土） 地域連携 ひらかた市民大学 2014

11:00

本学楠葉学舎にて「ひらかた市民大学 2014」（市内6大学との連携による講座）が開催され、高齢者歯科学講座の高橋一也 准教授が『「お口は元気の源です！」～介護予防のためのマネジメント～』をテーマに講演を行いました。

はじめに、日本における超高齢社会の現状を説明し、歯科が我々のライフサイクルのなかでとても身近な医療であること、そして「かかりつけ歯科医」を持つことの大切さをお話ししました。かっばえびせんやミネラルウォーターを使って、参加者の皆さんに実際に咀嚼や嚥下の簡単なテストを行い、舌や頬など口腔機能の仕組みや役割を実感してもらいました。

誤嚥性肺炎など高齢者特有の疾病を予防し、健康で長生きするためには、日常の口腔ケアが重要であり、自分の口をいかにマネジメントしたらよいのか、わかりやすくアドバイスくださいました。



11/21（金） 大学行事 平成 26 年度 実験動物慰霊祭

13:30

実験動物慰霊祭は今年度より、牧野学舎動物塚から楠葉学舎講堂に会場を移しての開催となり、清岸寺導師により牧野学舎動物塚前にて慰霊が弔われた後、楠葉学舎講堂において、教職員・大学院生・学部生が参列しての慰霊祭が行われました。

清岸寺導師の読経が響く中、川添堯彬学長の代表焼香に続いて教職員・大学院生・学部生がご焼香を行い、動物たちの霊に感謝の意が捧げられました。

最後に川添学長より、歯科医学教育・研究のために

身を捧げた動物たちの冥福を祈る慰霊の辞が述べられ、参加者一同、改めて冥福を祈りました。



国際交流

学生短期海外研修 シドニー大学歯学部 2014.8.16～25

学生6名（3年4名・4年2名）が生物学教室 岡村講師の引率で、シドニー大学歯学部を研修訪問しました。

研修内容は、特別講義・臨床見学を主体としたプログラムで、本学学生も積極的にディスカッションに参加しました。

海外の歯科事情に触れる貴重な経験となり、また、本学の学生とシドニー大学の学生達がウェルカムパーティーなどを通じて友情を深めました。

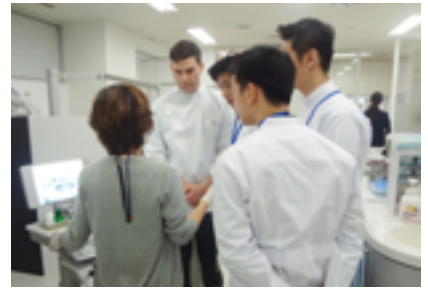


協定校学生受入 シドニー大学歯学部 2014.11.25 ~ 12.03

シドニー大学歯学部から学生4名が本学を研修訪問しました。

特別講義はすべて英語で行われ、研修の合間には本学の図書館の施設、附属病院では診療室など、診療所見学として、河村歯科医院を見学しました。

また、学生交流では、今年の夏にシドニー大学を訪問した3・4年生の学生達が主体となって、訪問以前から連絡を取り合い、ウェルカム・さよならパーティーを通じて、シドニー大学学生との友情を深めました。



|| 人事

教員採用

口腔治療学講座	主任教授	前田 博史
		H.26.9.1 付
薬理学講座	講師	河井まりこ
総合診療・診断科	講師	谷岡 款相
生物学教室	助教	平井 悠哉
解剖学講座	助教	川島 涉
口腔解剖学講座	助教	松田 哲史
	以上	H.26.10.1 付

昇 任

歯科理工学講座	主任教授	今井 弘一
		H.26.8.1 付
歯科医学教育開発室	准教授	益野 一哉
歯周病学講座	准教授	田口洋一郎
生化学講座	講師	吉川 美弘
生化学講座	講師	堂前 英資
歯科放射線学講座	講師	秋山 広徳
	以上	H.26.10.1 付

大学院教員任用

大学院教授		今井 弘一
		H.26.10.1 付

職員採用

大学庶務課	事務職員	橋本 照美
附属病院	看護師	岩谷亜希子
	以上	H.26.8.1 付

昇 進

歯科衛生士専門学校衛生士科	教員	前嶋亜優子
		H.26.8.1 付

依願退職

口腔解剖学講座	助教	乾 千珠子
		H.26.9.30 付

委 嘱

自己点検実施委員会	教育・研究部門委員	田中 昌博
		H.26.8.28 付

講師(非常勤)委嘱

講座教室外		
皮膚科学		清原 隆宏
		谷村 裕嗣
		以上 H.26.10.1 付

大学院歯学研究科

口腔インプラント学		田中佐智子
		H.26.11.1 付
歯科技工士専門学校講師(非常勤)		今井 弘一
		H.26.10.1 付

|| 寄贈

下記の通り寄贈を受けました。心より感謝いたします。

・大阪歯科大学同窓会甲寅会(第22回卒業生) | 甲寅会40周年を記念して | 学術研究奨励資金として30万円(平成26年10月)

|| あとがき

毎年12月4~10日の1週間は人権週間です。それにちなんで本学では人権標語募集が行われます。皆さまからお寄せいただいた作品は次号でご紹介したいと思います。

先日参加した人権啓発学習で「道一白磁の人」という映画を観ました。これは約百年前の朝鮮半島を舞台に、浅川巧(あさかわたくみ)とイ・チョンリムが林業技師として出会い、朝鮮半島に自然を取

り戻すことに尽力し、友情を育んでいくという、史実に基づく物語です。

日本が韓国を併合していたこの時代において、巧は朝鮮語を熱心に学び、文化を愛し、民族を越えて人々と交流します。肺炎により40歳にして急逝してしまいましたが、偏見や驕りに囚われることなく一人の人間として生きてまっすぐな眼差しが胸に刺さりました。

自分自身の生き方を省みる良いきっかけ

となりました。興味のある方はぜひ一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。

(総務課 人権担当)

— 関連書籍紹介 —

- 道・白磁の人 浅川巧の生涯—民族の壁を超え時代の壁を超えて生きた人/小澤龍一(合同出版2012)
- 浅川巧日記と書簡/浅川巧(草風館2003)
- 日韓交流のさきがけ-浅川巧/梶村彩(揺籃社2004)

大阪歯科大学広報 第172号

2014.08.01 ~ 2014.11.30

発行日 平成26年11月30日
編集発行 大阪歯科大学広報委員会
〒573-1121
枚方市楠葉花園町8-1
TEL 072-864-3111
